

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 10 日現在

機関番号：32661

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463577

研究課題名(和文) 保健師選択制を先駆的に実施した自治体と大学との協働による学生の到達度評価

研究課題名(英文) Evaluation of public health nursing students achievement levels based on the collaboration with local governments and universities pioneering the introduction of public health nursing electives

研究代表者

鈴木 良美 (SUZUKI, Yoshimi)

東邦大学・看護学部・准教授

研究者番号：90516147

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、東京都特別区(23区)保健師と7大学教員の協働により、保健師選択制導入による成果を評価することである。学生・保健師・教員を対象とし、保健師選択制実習導入前の2013年度から導入後の2014、2015年度に、厚生労働省の示した「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」(技術項目)の98項目を学生が到達できたかどうかを調査した。その結果、学生が技術項目を到達できたと回答した割合の98項目の平均は、各対象とも、選択制後に有意に上昇し、改革による一定の成果が得られたと考えられる。研究は保健師教育改革の成果を精度の高い多くの情報で示し、今後の保健師教育の評価や質向上に寄与すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to evaluate the educational outcomes after introducing undergraduate public health nursing electives based on collaboration with public health nurses and faculties in special wards in Tokyo. In order to compare the students' levels of achievement in the 98 skills presented by the Japanese Ministry of Health, Labour, and Welfare before and after the introduction of electives, fourth-year students, teachers and public health nurses groups were surveyed in 2013(pre-elective), 2014 and 2015 (post-elective). The average rates of students' achievement on 98 items were significantly increased after the educational reform in all three participant groups. This study demonstrated the public health nursing education improvements based on accurate data and its contribution to the evaluation and improvement of future public health nursing education.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：保健師 技術項目 到達度 基礎教育 学生 教員 選択制 評価

1. 研究開始当初の背景

多様化し複雑化する国民の健康課題へ対応できる質の高い保健師の養成が求められる中、保健師助産師看護師法が改正された。これにより、これまで看護系大学で必修とされていた保健師養成課程は、2011年度入学生から学内で選抜された者もしくは希望者が同課程を選択する選択制が可能となった。これは1948年に同法が制定されて以来の大きな改革である。

東京都特別区(23区)内の大学では、看護系大学数の急増に伴い、保健師教育機関と実習受入れ機関との協議により、全国に先駆けて、2011年度入学生(2014年度4年生)から、保健師の質を高めるために実習の受入れ学生数を制限することが合意された。それに伴い、特別区内の多くの大学が、従来の学部で全員が保健師と看護師の両方の資格を取得する統合カリキュラムから、少数精鋭で保健師教育を行う選択制へと移行した。先駆的な試みの成果を適切に評価する必要があると考えられる。

現代の教育評価においては、到達目標を基準にそれに到達しているかどうかを評価する到達度評価が重視されている。また、大学における保健師基礎教育の包括的評価に関する過去10年間の国内外の文献検討によると、これまでの研究は、対象が一教育機関の学生に限定された一時点での調査が多かった。そこで今後は、到達度を活用し、複数の視点による経験的な調査が必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、特別区保健師と7大学教員との協働に基づき、学生の到達度を学生・教員・保健師を対象として多角的・経年的に評価し、保健師選択制導入による成果と今後の課題を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究は特別区の保健師と7大学の教員との協働により、無記名自記式の質問紙調査を、選択制導入前の2013年度から導入後の2014、2015年度に実施した。

対象は以下の3者となる。

特別区内7大学の学生で、2013年度は統合カリキュラムで学年全員が履修したため663名、2014年度からは1校20名以内の選択制となり136名、2015年度140名。

上記大学の地域看護学(公衆衛生看護学)教員で、2013年度20名、2014年度25名、2015年度25名。

23区内で学生実習を指導した保健師、各施設1名で、2013年度86名、2014年度86名、2015年度78名。

質問項目は、上記三者に対し、厚生労働省の示した「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度(以下、技術項目)」98項目を、学生が到達できたかどうかを確認した。この技術

項目は、デルファイ法を用いた麻原らによる全国調査¹⁾を基盤に厚生労働省が修正・通知したものであり、エビデンスに基づいた国の指標であると言える。さらに学生に対しては、家庭訪問などの実習体験項目15項目を体験できたかどうかを確認した。

データ収集後、単純集計、対象ごとの経年的な比較を行った。

4. 研究成果

(1)回収結果

三者の回収結果は表1のとおりである。

表1 回収結果

対象年度	①学生			②教員			③保健師		
	2013	2014	2015	2013	2014	2015	2013	2014	2015
対象者数(人)	663	136	140	20	25	25	86	86	78
回収数(人)	348	120	129	16	17	14	57	53	45
回収率(%)	52.5	88.2	92.1	80.0	68.0	56.0	66.3	61.6	57.7
有効回答数(人)	310	114	115	16	16	14	49	42	40
選択制対象(人) ¹⁾								30	36

1)2014、2015年度において保健師は選択制以外の学生も指導しているため分析対象は選択制学生を指導した保健師とした。

(2)調査結果と考察

調査の結果、学生が技術項目を到達できたと回答した割合(到達割合)の98項目の平均は、学生からの回答では、選択制導入前の2013年度は67.9%であったが、選択制導入後は2014年度72.6%、2015年度72.6%となり、選択制導入後に有意に上昇した。保健師、教員を対象とした調査においても選択制導入前は40%前半であったが、選択制導入後は60%前後となり、選択制導入後に有意に上昇していた(図1、表2)。選択制導入後も到達割合が低かった項目には、施策化に関する項目などが含まれていた。また、学生を対象とした体験項目の調査結果に関しても、選択制導入後に体験した割合(体験割合)の平均が有意に上昇していた。

以上の結果から、到達割合・体験割合は選択制導入後に、有意に改善していた。この要因として、選択制導入後は保健師への志向性や意欲の高い学生が多いことや、講義・実習を充実させたことが関連していると考えられる。他方で、選択制になっても、学生の到達割合は7割、保健師・教員の到達割合は6割程度であり、全ての項目を到達することが難しいのが現状であった。この要因には、学部の中で保健師基礎教育を行う場合の時間的制約も影響していると考えられる。

<引用文献>

1)麻原きよみ、大森純子、小林真朝、他、保健師教育機関卒業時における技術項目と到達度、日本公衆衛生雑誌、Vol.57、No.3、2010、184-193。

図 1 到達割合 98 項目平均の推移

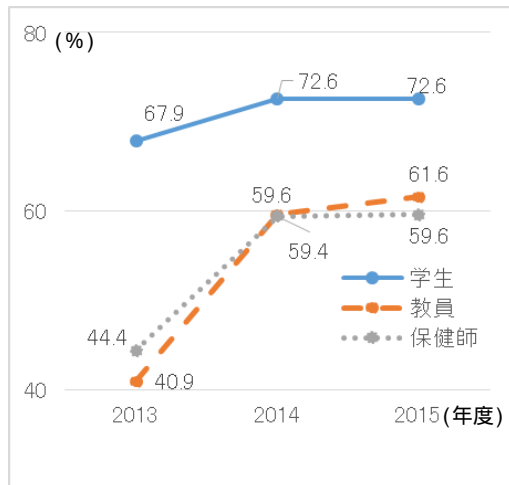


表 2 到達割合 98 項目平均 各年度の比較

年度	2013		2014		2015		2013 × 2014		2013 × 2015	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	p_1	p	p_1	p
学生	67.9	14.2	72.6	13.4	72.6	12.5	0.05	0.048		
教員	40.9	20.1	59.7	18.7	61.6	18.8	0.00	0.00		
保健師	44.4	11.6	59.4	11.0	59.6	10.1	0.00	0.00		

1) 検定は、ANOVA 後 Bonferroni の多重比較による。
 $p < 0.05$ のみを示した。
 なお、2014 × 2015 年度は有意差はなかった。

(2) 成果の共有と改善

調査結果を、論文や学会発表に加えて、特別区の保健師と教員が一堂に会する「特別区公衆衛生看護学実習を考える会」で報告し、今後の改善方法を検討した。例えば到達割合の低かった施策化に関しては、各実習機関や大学での教育方法の工夫を共有するなど、具体的な改善方法を検討し、教育内容の改善に努めた。

(3) 受賞

以上の活動が認められ、以下の二つの学会にて表彰を受けた。

第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会 優秀ポスター賞受賞：鈴木良美、岸恵美子、宮城真樹、梅田里衣、麻原きよみ、特別区で先駆的に実施した保健師選択制実習の成果と課題：第 1 報 学生の自己評価から 2016 年度日本公衆衛生学会 奨励賞受賞：鈴木良美、先駆的に保健師選択制を導入した自治体と大学との協働による学生の技術到達度評価

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

鈴木良美、齊藤恵美子、澤井美奈子、岸恵美子、掛本知里、中田晴美、五十嵐千代、麻原きよみ、保健師選択制導入前後における学生の技術到達度と実習体験に関する評価、査読有、日本公衆衛生雑誌、Vol.63、No.7、2016、pp.355-366

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jph/63/7/63_15-085/_article/-char/ja/
 鈴木良美、齊藤恵美子、澤井美奈子、岸恵美子、掛本知里、中田晴美、五十嵐千代、三好智美、麻原きよみ、永田智子、森豊美、神楽岡澄、東京都特別区における保健師学生の技術到達度に関する学生・教員・保健師による評価、査読有、日本公衆衛生雑誌、Vol.62、No.12、2015、pp.729-737

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jph/62/12/62_14-101/_article/references/-char/ja/

〔学会発表〕(計 17 件)

齊藤恵美子、中田晴美、森豊美、栗原せい子、鈴木良美、保健師教育課程選択制導入前後の学生実習での技術到達度の比較：第 3 報 保健師の自由回答からの分析、第 5 回日本公衆衛生学会看護学会学術集会、仙台国際センター(宮城県・仙台市)、2017 年 1 月 22 日

五十嵐千代、望月由紀子、下園美保子、野尻由香、麻生保子、永沼由貴、鈴木良美、保健師教育課程選択制導入前後の学生実習での技術到達度の比較：第 2 報 教員による評価、第 5 回日本公衆衛生学会看護学会学術集会、仙台国際センター(宮城県・仙台市)、2017 年 1 月 22 日

岸恵美子、鈴木良美、澤井美奈子、掛本知里、麻原きよみ、保健師教育課程選択制導入前後の学生実習での技術到達度の比較：第 1 報 学生による評価、第 5 回日本公衆衛生学会看護学会学術集会、仙台国際センター(宮城県・仙台市)、2017 年 1 月 22 日

吉田和樹、今井治彦、呉珠響、齊藤恵美子、鈴木良美、一教育機関の保健師学生の実習での体験と技術到達度の自己評価、第 5 回日本公衆衛生学会看護学会学術集会、仙台国際センター(宮城県・仙台市)、2017 年 1 月 22 日

鈴木良美、日本公衆衛生学会 奨励賞受賞講演 先駆的に保健師選択制を導入した自治体と大学との協働による学生の技術到達度評価、第 75 回日本公衆衛生学会総会、グランフロント大阪(大阪府・大阪市)、2016 年 10 月 28 日

岸恵美子、鈴木良美、中田晴美、澤井美奈子、斉藤恵美子、五十嵐千代、掛本知里、麻原きよみ、森豊美、栗原せい子、自治体と大学との協働による保健師基礎教育の取り組み：保健師選択制 2 年目の検証(ワークショップ)、第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会、一橋大学一橋講堂(東京都・千代田区)、2016 年 1 月 23 日

中田晴美、掛本知里、澤井美奈子、五十嵐千代、望月由紀子、鈴木良美、特別区で先駆的に実施した保健師選択制実習の成果と課題：第 3 報 教員の評価から、第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会、一橋大学一橋講堂(東京都・千代田区)、2016 年 1 月 23 日

掛本知里、中田晴美、斉藤恵美子、森豊美、栗原せい子、鈴木良美、特別区で先駆的に実施した保健師選択制実習の成果と課題：第 2 報 保健師の評価から、第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会、一橋大学一橋講堂(東京都・千代田区)、2016 年 1 月 23 日

鈴木良美、岸恵美子、宮城真樹、梅田里衣、麻原きよみ、特別区で先駆的に実施した保健師選択制実習の成果と課題：第 1 報 学生の自己評価から、第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会、一橋大学一橋講堂(東京都・千代田区)、2016 年 1 月 23 日

澤井美奈子、山口智美、鈴木良美、五十嵐千代、掛本知里、岸恵美子、斉藤恵美子、中田晴美、自治体と大学の協働による先駆的選択制実習の成果 - 指導保健師へのインタビューから、第 74 回日本公衆衛生学会総会、長崎ブリックホール(長崎県・長崎市)、2015 年 11 月 4 日

鈴木良美、澤井美奈子、斉藤恵美子、岸恵美子、五十嵐千代、中田晴美、掛本知里、永田智子、麻原きよみ、保健師選択制前後の保健所・保健センター実習における学生の実習体験項目の変化、第 74 回日本公衆衛生学会総会、長崎ブリックホール(長崎県・長崎市)、2015 年 11 月 4 日

Yoshimi Suzuki, Emiko Saito, Emiko Kishi, Satori Kakemoto, Chiyo Igarashi, Harumi Nakada, Minako Sawai, A comparative study of public health nursing competencies for nursing students evaluated by students, instructors, and public health nurses, The 6th international conference on community health nursing research, Seoul(Korea), 2015 年 8 月 19 日

斉藤恵美子、岸恵美子、鈴木良美、中田晴美、五十嵐千代、掛本知里、澤井美奈子、三好智美、麻原きよみ、永田智子、自治体と大学との協働による保健師基礎教育の取り組み - 保健師教育選択制を先駆的に実施した大学からの報告 - (ワークショップ)、第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会、神戸国際会議場(兵庫県・神戸市)

2015 年 1 月 11 日

鈴木良美、斉藤恵美子、澤井美奈子、岸恵美子、掛本知里、五十嵐千代、中田晴美、三好智美、麻原きよみ、永田智子、特別区 7 大学学生の保健所・保健センターにおける実習体験項目と保健師就職希望および実習期間との関連、第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会、神戸国際会議場(兵庫県・神戸市)、2015 年 1 月 10 日

澤井美奈子、岸恵美子、五十嵐千代、掛本知里、麻生保子、野尻由香、望月由紀子、下園美保子、三好智美、堀内朋子、川上文子、神楽岡澄、鈴木良美、23 区保健師による学生実習に対する「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」評価、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木県総合文化センター(栃木県・宇都宮市)、2014 年 11 月 7 日

鈴木良美、斉藤恵美子、中田晴美、柳修平、遠藤直子、永田智子、麻原きよみ、23 区内 7 大学学生による「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」の自己評価、第 73 回日本公衆衛生学会総会、栃木県総合文化センター(栃木県・宇都宮市)、2014 年 11 月 7 日

鈴木良美、学部における保健師教育の包括的な評価に関する文献レビュー、第 17 回日本地域看護学会学術集会、岡山コンベンションセンター(岡山県・岡山市)、2014 年 8 月 3 日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木良美 (SUZUKI, Yoshimi)
東邦大学・看護学部・准教授
研究者番号：90516147

(2) 研究分担者

澤井美奈子 (SAWAI, Minako)
日本赤十字看護大学・看護学部・講師
研究者番号：90520776

斉藤恵美子 (SAITO, Emiko)
首都大学東京・人間健康科学研究科・教授
研究者番号：90251230

岸恵美子 (KISHI, Emiko)
東邦大学・看護学部・教授
研究者番号：80310217

掛本知里 (KAKEMOTO, Satori)
東京有明医療大学・看護学部・教授
研究者番号：60254562

五十嵐千代 (IGARASHI, Chiyo)
東京工科大学・医療保健学部・教授
研究者番号：20587787

中田晴美 (NAKADA, Harumi)
東京女子医科大学・看護学部・准教授
研究者番号：90385469

(3) 連携研究者

麻原きよみ (ASAHARA, Kiyomi)
聖路加国際大学大学院・看護学研究科・
教授
研究者番号：80240795